



31年ぶりの春、当確、

高崎

県勢2校センバツ有力



高崎一東海大甲府 金子が中沢をかえす右前打を放ち同点＝甲府市・小瀬スポーツ公園野球場

【山梨＝春山未央記者、山田浩之カメラマン】第64回秋季関東地区高校野球大会第5日は2日、山梨・小瀬スポーツ公園野球場で準々決勝を行い、本県の高崎(群馬2位)は第2試合で東海大甲府

(山梨1位)と対戦し、4-2で競り勝った。センバツ出場校選考へ有力となる4強入りを果たし、31年ぶり2度目の甲子園出場を大きく引き寄せた。

1日は健大高崎(群馬1位)が4強入りし、セン

バツ出場をほぼ確実にしており、両校が選ばれれば、本県の2校出場は2009年の高崎商、前橋商以来。

高崎は1点を追う六回、1死三塁から金子裕紀(2年)の右前打で同点、さらに塚越陸(1年)、倉金宏輔(2年)の連続適時打で逆転した。先発した島田智史(同)は5安打2失点で完投。

あす3日は、準決勝第1試合(午前10時開始予定)で健大高崎と浦和学校(埼玉1位)、第2試合(午後0時30分開始予定)で高崎と作新学院(栃木1位)を行う。

6回集中打で逆転

Ⓞ：高崎は1点を追う六回、長短4安打を集中し逆転した。先頭中沢の左中間三塁打と金子の右前適時打で同点。さらに塚越が適時三塁打、倉金も左翼フェンス直撃の適時打で続き、この回3点を挙げた。八回は浅沼の左翼線二塁打を足場に2死三塁とし、暴投で1点を加えた。先発島田は5安打2失点で完投。初回到に左越え二塁打を足場に内野ゴロで先制を許したが、以降立ち直った。

秋季関東高校野球

▶ 準々決勝

高崎	0	0	0	0	0	3	0	1	0	4
東海大甲府	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2